



雨を受けているあじさいがしっとりとてもきれいです。防府には、あじさい寺として有名な「阿弥陀寺」があり、今とてもきれいな花を咲かせています。みなさんも訪れられ、楽しまれてはいかがでしょうか。(6月18日は「あじさい祭り」が行われ、抹茶の接待や献花などの様々なイベントが行われるようです。)

我慢する力

今、私たちの周りには物があふれ、欲しい物はすぐに手に入れることができる時代になりました。

かつて、読みたい本があれば小遣いをこつこつ貯めて、遠くの本屋まで歩いて行き、やっと購入し、家に帰ってからワクワクしながら表紙を開けたというような経験をしました。そのように苦労して手に入れた物ですから何度も何度も読み、大切に保管していました。皆さんも同じ思いをもっている方も多いのではないのでしょうか。

今の時代は、苦労をしなくても欲しい物があればすぐに手に入ります。本だけでなく、ゲーム機、スマホ、洋服、美味しい食べ物・・・等、インターネットを使えば、すぐに届きます。今の環境は本当に昔と大きな違いがあるのですね。

そのせいか、子どもたちが我慢するという経験が少なくなっているように思います。我慢する機会が少ないことが子どもたちにどのような影響を与えているのでしょうか。我慢させることの大切さについて考えさせてくれる話を紹介しましょう。

4歳の子どもたちにマシュマロを1つ与え、15分席を外した間、食わずに待てばもう1個あげると約束をして子どもたちの葛藤を観察。この結果、3分の1がすぐに食べ、最後まで我慢した子どもは数人だけ。この子どもらを18歳まで追跡調査をしたところ、最後まで我慢した子どもは社会性、人間関係、学力に優れ、すぐに食べた子どもは精神的に問題が多いことが分かったという。

「EQ 心の知能指数」 (ダニエル・ゴールマン 著)

いかがですか、読まれてどのように思われたのでしょうか？私は子育てにとって大切なことがこの話の中にあるように思います。

子どもは欲しいものがあると「ゲーム機が欲しい」「スマホが欲しい」「○○が食べたい」「みんなが持っている」等と要求をしてきます。そして、親が買い与える。そのような家庭の中での姿、それでよいのでしょうか？

子どもの要求にはノー (NO) と言わなくてはならない時があります。ノー (NO) と言わなければならない時の方が多いのかもしれません。子どもが欲しがった時には、「なぜ欲しいのか」と子どもの主張を聞き、買わない時には「なぜ買わないのか」という親の考えを伝える。そしてしっかりと話し合い、納得させ (100%納得しないかもしれませんが・・・)、我慢をさせなければなりません。

子どもに「我慢する力」を付けさせることは大人や親の務めなのです。それが長い先を考えた時、子どもを幸せにするのだと思います。